

2019年度の「林業遺産」に 6件が選定されました！

日本各地の林業は、地域の森林をめぐる人間の営みの中で編み出され、明治期以降は海外の思想・技術も取り入れつつ、大戦期の混乱を経て今日に至るまで、多様な発展を遂げてきました。日本森林学会では、学会100周年を契機として、こうした日本各地の林業発展の歴史を、将来にわたって記憶・記録していくための試みとして、「林業遺産」選定事業を2013年度から開始しました。7年目となった2019年度は、6件を林業遺産(登録No.36~41)として認定しました。選定結果は、2020年5月27日の日本森林学会定時総会において公表され、認定証・記念品が各件の所有者・管理者等に贈呈されました。

「林業遺産」についての詳細情報は、日本森林学会のホームページをご参照ください。

<https://www.forestry.jp/activity/forestrylegacy/>



3 平蔵沢ヒバ人工林施業展示林(岩手県滝沢市)



展示林の林況

1 湯野風穴種子貯蔵施設遺構(福島県福島市)



全景

2 大日本山林会 林業文献センターと収集資料群(東京都港区)



文献センターでの資料閲覧の様子

4 米沢市の山との暮らしを伝える遺産群:草木塔群と木流し(山形県米沢市)

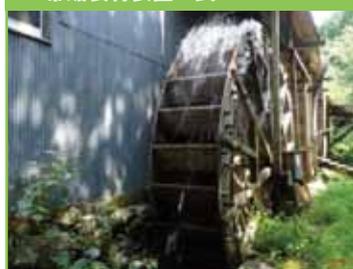


留め場の跡



草木塔の例

6 大型木製水車駆動帯鋸製材装置一式(岡山県美作市)



上掛け式の水車

5 再度山の植林と関連資料(兵庫県神戸市)



明治36年(1903年)時点の積苗工の施工状況

1	湯野風穴種子貯蔵施設遺構	1949 (昭和24)年頃	福島県福島市 飯坂町湯野	戦後の活発な植林・種苗事業の歴史を伝える、状態良好な風穴利用種子貯蔵施設
2	大日本山林会 林業文献センターと収集資料群	1977 (昭和52)年	東京都港区赤坂	設立以来、組織的方針のもとに収集・保存・ウェブ公開されてきた、貴重かつ膨大な林業関係資料群
3	平蔵沢ヒバ人工林施業展示林	1843 (天保14)年頃	岩手県滝沢市 影添国有林	東北地方最古のヒバ人工造林地
4	米沢市の山との暮らしを伝える遺産群:草木塔群と木流し	木流し: 1605(慶長10)年頃、草木塔: 1780 (安永9)年	留め場跡:米沢市大字入田沢字八谷地内 草木塔群:米沢市大字入田沢 字塩地平地内ほか	江戸時代に始まる大規模な薪材流送の歴史を物語る遺構と、山村民の山や草木への想いを物語る石碑群
5	再度山の植林と関連資料	1902 (明治35)年	(遺構群)兵庫県神戸市 北区 山田町下谷上宇中一里山	六甲山系の砂防・植林事業の歴史を今に伝える資料群と遺構群、及び再生した森林
6	大型木製水車駆動帯鋸製材装置一式	1937 (昭和12)年	岡山県美作市右手	製材技術の歴史を今に伝える、稼働可能な水車式製材施設